

奈良県立大学生協 新入生説明会



[新学期]

取り組み概要

日付：2026年3月29日（日）
時間：10：30～14：00
場所：コモンズ棟各教室
参加者数：参加者90名
学生委員会9名

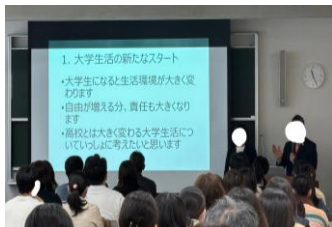
背景や概要：奈良県立大学生協の新入生説明会に訪問。参加者は約90名と今年最多レベル。学生主体のプレゼンに加え、**共済制度**をゲーム形式で学ぶ工夫が印象的でした。制度を「説明する」のではなく、「**ジブンゴトにする**」設計が光る取り組みでした。

楽しみながら伝える

新入生説明会のかたち

POINT.1

参加者90名、今年最多レベルの新入生説明会



今年の奈良県立大学生協の新入生説明会は、参加者約90名。3月実施時の約40～50名と比べても、大きな広がりが見られました。会場で印象的だったのは、学生が前に立ち、**実体験**を交えて大学生活を語っていたこと。スライドも学生が作成し、「履修はここが難しい」「一人暮らしはここが不安だった」と**リアルな言葉**で伝えていました。後半は職員と学生が並び、共済制度や生協サービスを説明。「**役割分担**」ではなく、「**一緒につくる場**」になっていたことが、この説明会の最大の魅力でした。

POINT.2

共済を“聞く制度”から“考える制度”へ

難しい共済制度をどう伝えるか。奈良県立大学生協が選んだのは「**共済ジャッジ**」というゲーム形式でした。事例カードを使い、「**給付される？されない？**」をグループで話し合う。全体会の説明をヒントに、**自分たちで判断する時間**をつくっていました。参加者からは「楽しく理解できた」「必要性が分かった」という声も。制度を「**説明する**」のではなく、制度を「**ジブンゴトにする**」。その転換が印象的でした！



POINT.3

「売る」よりも「理解してもらう」



保護者説明会でも工夫が光っていました。PCの4年間保証、教科書、下宿、免許取得率。**学生生活実態調査データ**や**先輩の声**を交えながら、入学後の生活を具体的にイメージできる構成でした。会場後方から見ていると、「安くていいな」「保証あるのは安心やな」といった声も。そこにあったのは、販売色よりも「**理解**」を大切にする姿勢。奈良県立大学生協の新入生説明会は、説明の場ではなく、**信頼をつくる場**でした。